

平成30年度 宇都宮市食育推進会議 議事録

■ 日 時 平成31年3月25日（月）午後2時00分から午後3時10分

■ 場 所 宇都宮市議会棟3階 第2委員会室

■ 出席者

1 委 員（16名）

金崎芙美子委員，高橋美幸委員，大森玲子委員，長谷川英一委員，湯澤洋子委員，
岩本眞砂枝委員，中山玲子委員，川崎浩子委員，福田治久委員，増渕祥子委員
塩沢美枝子委員，高橋友久委員，中野智之委員，山口和子委員，荒川昭子委員，
坂本理江子委員（委員名簿順）

※ 欠席委員（4名）：小森享委員，遠藤秀樹委員，檜原貞亮委員，見形繁委員

2 事務局（12名）

【保健福祉部】 部長，次長（保健衛生担当），保健所長

【健康増進課】 課長，保健センター所長，課長補佐，企画グループ係長，
健康づくりグループ係長，職員4名

■ 公開・非公開の別 公開

■ 傍聴者・記者 なし

■ 会議経過

1 開 会

- ・ 委員の過半数が出席しており，本会議は有効であることを報告
- ・ 「附属機関等の会議の公開に関する要領」に基づき，会議公開について説明，委員了承
- ・ 所定の手続による事前の周知の結果，傍聴希望者及び記者なし

2 会長あいさつ

3 委員紹介

4 副会長選出

- ・ 前任の副会長の退任に伴い，新たに副会長を選出
- ・ 宇都宮市食育推進会議規則に基づく委員の互選により，副会長に高橋美幸委員を選出
- ・ 副会長よりあいさつ

5 議事

- (1) 「第3次宇都宮市食育推進計画」の取組状況について
- (2) 「第3次宇都宮市食育推進計画」における目標値の設定について

6 委員からの主な意見・質問等（要旨）

(1) 協議事項

「第3次宇都宮市食育推進計画」の取組状況について

◎ 会長

資料に記載のある、食生活改善推進員協議会と大学との連携事業について、実際に実施された感想をいただきたい。

● 委員

とても良い経験をさせてもらった。生徒たちにアンケートを実施したが、好意的な意見が多く、普段勉強できないようなことが学べ、また来てほしいとの意見もあった。普段の授業で既に学んでいるような内容でも、我々のような人から身近な食生活について教えられると、理解しやすいとの意見があったので、平成31年度についても授業に入り込んでいくとともに、担当地域ごとに深く入り込んで事業を進めていきたい。

◎ 会長

地区で事業を実施されている各団体より意見等をお願いしたい。

● 委員

昨年10月に父と子の調理教室ということで、10組の家族、人数は25～26名に御参加にいただき、牛乳を使ったヘルシーメニューの調理実習を行った。非常に参考になったという感想をいただいているところであり、次年度については、高齢者向けの調理実習を実施予定。

● 委員

最近の傾向としてオーラルフレイルが全身のフレイルにつながっていくという認識がようやく深まり、小さいころから食を通して全身の健康を保つということが結果的に地産地消などにもつながり、自分で作ったものを自分で食べるということが全身の健康に繋がるということが認識されてきている。口腔機能が生まれたときから亡くなるときまで継続していなければ、きちんと食事を摂ることができないので、それをサポートしていくのが私たちの仕事だと思っている。

● 委員

市役所庁内での連携例として、平成30年度は子供向けの啓発に加え、保護者向けの

啓発も行ったとのことだが、保護者が自分の食の充実を図るということは、子どもの食の充実も図るということで素晴らしい取組である。小学校の中でも一部欠食児童がおり、そういった保護者が3歳児健康診査など、子どもが小さいときにこうした話を聞いたり、啓発を受ければ、自分の食も見直さなければいけないと思ってもらえるため、良い方向に進んでいくと思う。

◎ 会長

働く世代である保護者の方々にダイレクトに働きかけていくことは難しいが、こうした取組を進めていただきたい。

保護者側の立場から、PTA連合会より何か意見をいただきたい。

● 委員

今年度は安心、安全の点で、西原小学校で食中毒が発生したところであるが、こうした事態はあってはならないことである。発生したのがたまたま週末だったということもあり、感染を拡大させないようにするための連絡などが非常に難しかったので、発生した際の対応について周知徹底いただきたい。

また、一条中学校の調理施設は大変素晴らしく、子どもの食の提供を行う場を充実させていくことは非常に重要であると思う。

● 委員

二児の母であるが、ママ友との話題に食事や栄養についての話題が出てこないのが実情であるが、頭の片隅で食事のことなどを気にされている保護者はいると思うので、保護者対象のイベントや啓発をきっかけに、食事のことを気に掛ける機会を増やせると思う。

● 委員

保護者への周知はすごく大切であるが、マスコミ等に踊らされず、一つの食品を取り続けられないなど、食のバランスの面でも正しい知識を自分から積極的に得られるように興味をもってもらうことが大事だと思う。自分の孫やその友達などを見ると、ごはんだけを食べるなど、一つの食品だけを食べていて、食べないよりはいいという保護者も多く、また、「食べるものを出す」、「食べないものは食卓に出したら無駄だ」というような考え方の保護者もいると聞く。食べないから出さないではなく、保護者が食べさせる努力をしたり、食べなくても食品を食卓で見ることで視覚から入るなど、食育に対する努力が必要だと感じる。子どもの栄養が欠乏していくと、なんとなく行動が目立ったり、保護者も顔色が悪かったりするるので、そういった意味でも保護者にもっと知識を身に付けてほしい。

● 委員

保育園では、育休明けからお子様を預ける人が多くなり、園児に1歳児もいるが、保護者の方が離乳食をベビーフードに頼る方が多く見受けられる。噛みやすいもの、飲み込みやすいものを多く食べるので、咀嚼が得意ではなく、結果、発語や滑舌などにも影響したり、食べ方や飲み込み方にも影響している。

また、母乳を重視している保護者が多いが、母乳のみだと栄養が偏るので、貧血の子供が少しずつ増加している。

● 委員

これまでの話に通じることだが、よく噛んで食べることは脳が活性化するので、成績は必ず上がる。子供にテスト前にガムを噛ませるだけで、テストの点数は上がる。また、記憶力を減退させないためにもガムが効果的である。歯にくっつきにくいガムが販売されており、ガムを噛むことで脳が活性化され、認知症の予防などにも繋がるとされている。是非、ママ友との会話の際、よく噛めば、良い塾に行かなくて済むことなどを話題に挙げてみてはいかがか。

離乳食の話でもあったが、柔らかいものばかり食べていると口腔のまわりの筋肉が発達せず、口腔機能も発達しないことに加え、脳の機能も活性化しないので、勉強もそれほどできないことがデータで明らかになっている。まずは、よく噛んで食べることから始めると良いなどの話を、皆様にしていきたい。

● 委員

進捗状況について、概ねA評価であるとのことだが、A評価のものは役割を果たしたということで、今後事業を実施しなくてよいのか。評価方法を教えていただきたい。

また、小・中学校で行われているお弁当の日実施事業について、共働きの時代に即していないのではないかと。

○ 事務局

各施策に位置付けている構成事業について、年度毎の目標値を設定しており、その達成状況をもとに評価している。5年間の中で計画の基本目標を達成できるよう、今後も事業を継続していく。

お弁当の日の実施については、全市立小中学校の中で年に2回、お弁当の日を設けており、全93校で実施していくというのが目標となっている。この事業については、全校で実施できており、目標が達成されている。お弁当の日に関しては、ライフスタイルの多様化により、中食や外食に依存することも多くなった時代の中で、保護者の負担になっているという声も上がっているが、子どもと一緒にお弁当を作ることで子どもが食に関して興味を持つなど、食に関しての関心が高まる良い機会のため、今後も継続して実施していく。

● 委員

働く女性が多くなった時代，このような事業は適切ではないと思う。

また，食の文化の継承のなかで，学校給食で郷土料理の提供とあるが，宇都宮市の郷土料理とはなにか。

○ 事務局

給食の中では，しもつかれなどを提供している。また，郷土料理ではないが，宇都宮になじみの深い，餃子のアレンジメニューとして，宇都宮大学と共同開発した「餃子めし」を提供している。

● 委員

日本食は，食材の味を活かしたシンプルなものであると思うが，調味料をたっぷり使ったものが給食で提供されている機会が多く，学校給食の献立が，日本食とかけ離れたものが多いように思う。食文化の継承が名ばかりにならないようにしていただきたい。

◎ 会長

本日の御意見を参考に，次年度以降の事業に活かしていただきたい。

(2) 「第3次宇都宮市食育推進計画」における目標値の設定について

● 委員

宇都宮産農産物を積極的に選択する割合というのは，宇都宮産農産物を利用する・食べる割合とは別なのか。

○ 事務局

宇都宮産農産物を意識的に購入することを意味している。

● 委員

目標値は93.7%ということだが，需要と供給のバランスはとれているのか。

● 委員

宇都宮産農産物を選択する割合とは，どういう意味か。また，93.7%にするということではどうか。また，目標値が細かい気がする。

○ 事務局

宇都宮産とそれ以外のものがあつた場合，宇都宮産を選択することである。

また，目標値については，現状等を踏まえ，関連計画で設定されている。なお，関連計画において，最終年度である平成35年度の目標値を100%と設定しているところで

あり、食育推進計画は平成33年度までのため、93.7%としている。

● 委員

意見として、世論調査の回答対象者などの詳細がわかると良い。

○ 事務局

御意見を踏まえ、検討する。

(3) その他

● 委員

先程お話のあったお弁当の日について、お弁当の日のうち1日はおにぎりの日、もう1日はお弁当の日と、年2回のお弁当の日が設定されている。事業開始当初は、面倒だという声も上がっていたが、継続して実施してきたことで、自分で作ってくる子どもが増えてきた。学年ごとに目標を決めて行っているが、保護者と話し合っって一生懸命作ってくるという子ども達が増え、宇都宮市のお弁当の日は良い方向に進んでいると思う。

● 委員

子どもたちがお弁当を作ってくることは良いことだが、キャラクター弁当のように、保護者同士でお弁当の中身を競うといったことはないのか。

● 委員

最初の頃はあったが、近年は落ち着いてきている。保護者の負担はあるが、子ども達と一緒にお弁当を作れることが楽しい、子どもが料理の技能を身に付けてくれて嬉しいという意見が多くなってきている。

● 委員

孫の様子を見ていると、お弁当の日を通じて、料理に興味を持つきっかけとなっているように感じる。

● 副会長

お弁当の日については、宇都宮市が全国初の市内小中学校全校での実施ということで、宇都宮市として誇れる事業であることを嬉しく思う。様々な課題はあるが、子ども達が料理に関する技能を身に付ける良いきっかけづくりになっているほか、自分で作って食べる喜びを知ることができており、こうした取組こそが食育であると感じている。また、お弁当づくりコンクールなども年々定着し、子ども達のスキルもレベルアップをしており、非常に良い方向に進んでいるので、今後も継続していただきたい。

● 委員

お弁当を作ることが目標ではなく、日常的に家族で食事を摂ることのほうが大事な目標だと思う。

8 閉会